

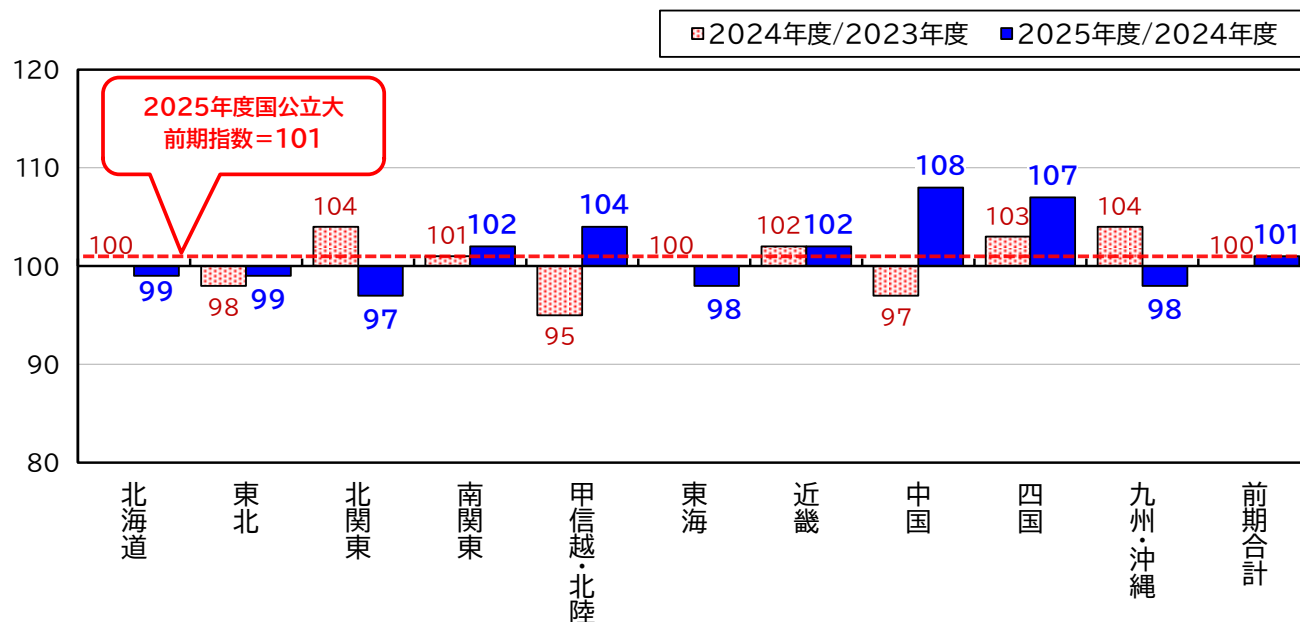
※本文内の( )内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

## ◎地区別志願状況

□前期は中国で増加、四国、甲信越・北陸でやや増加、北関東でやや減少

[地区別志願者指数]

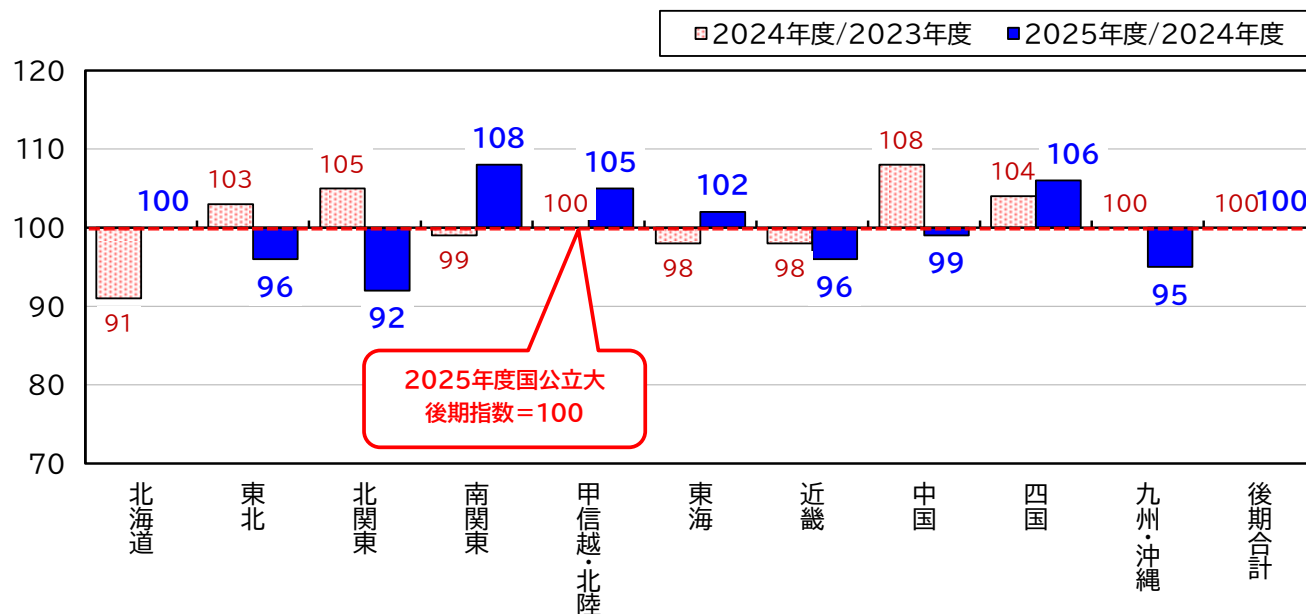
<前期日程>



前期は、中国(108)は増加、四国(107)はやや増加で2年連続増加、甲信越・北陸(104)はやや増加。南関東(102)、近畿(102)は微増でした。一方で、北関東(97)はやや減少、東海(98)、九州・沖縄(98)、北海道(99)、東北(99)は微減でした。中国は山陽小野田市立山口東京理科大(209)の薬<前>新規実施や山口大(121)の大幅増加が影響しました。

これらの動きの中で人口の多い南関東(102)、近畿(102)はいずれも4年連続微増で、大都市圏への流入がなだらかに続いています。東海(98)は微減で3年ぶりに減少しました。

## &lt;後期日程&gt;



後期は、南関東(108)が増加、四国(106)、甲信越・北陸(105)がやや増加となっています。一方で、北関東(92)は減少、九州・沖縄(95)、東北(96)、近畿(96)はやや減少です。

南関東(108)は新規実施の学部がある埼玉大<後>(123)や東京外国語大(128)、東京都立大(128)の大幅増加が影響しました。北関東(92)は前年度大幅増加した茨城大(86)、宇都宮大(87)の減少が影響しました。